

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ドユーラボてだこ		
○保護者評価実施期間	令和8年5月13日		～ 令和8年5月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	令和8年5月25日		～ 令和8年5月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年5月28日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の得意を最大限に伸ばしていく個別・集団で取り組むプログラム環境	多様なプログラムがあり、固定化しないようにチームで制作を行っている。得意を伸ばし自信をつけることで、様々な活動への参加や集団での役割の必要性を感じて実践していく力が身につく、将来の自身の進路決定への一助となるよう取り組んでいる	専門的な知識を持つ外部講師を呼ぶことで児童の興味関心を向上させていく さらに、児童のライフステージに合わせたレベルを考えていく
2	児童自身が得意や不得意を理解し、特性を強みと理解し活動できるよう、児童や保護者へ支援している	送迎時の会話や各種モニタリングなどで、児童の特性にあった進路や自己理解を促すための機会作りを行い、保護者、職員とも共通理解を持っている	発達凸凹の強みを活かす支援を、職員間の共有や保護者との間だけでなく、複数の関係機関とも協力して支援体制の構築していきたい。非認知の児童へもアプローチを考えながら、特性を強みにしていきたい
3	子どもの自己決定を尊重した支援	活動内容や過ごし方について、児童自身が目的を持って選択できる機会を大切にしている。自身が発信したことを達成することで、次の活動への切り替えや意欲につながっている。職員は声掛けや選択肢の提示方法を工夫している	児童の興味関心を広げるための常に新しいことを発信していきたい

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流や地域連携の機会が少ないことや保護者会など保護者同士が交流する機会が少ない	同じ悩みを持つ保護者の交流を持ちたいというニーズは特性によって要望があるが日々の相談対応が中心となっている。また社会参加へのきっかけとして、イベントへの外出支援や児童館で過ごすなど要望はあるが、必ずしもニーズは一致していない。	保護者のニーズを確認しながら、参加しやすい形での情報提供や交流機会について検討していく。また、相談支援だけでなく、保護者向けの学びや共有の機会づくりについても今後取り組んでいく。
2	防災や安全体制に関する周知が十分に行き届いていない状況が見られる。	整備や実施している取り組みであっても、案内が個々であったりと周知方法が一定していない。そのため保護者への周知や伝達が十分ではない。	ホームページも改修しており、その他媒体も活用しながら活動プログラムや防災対策、家族支援の内容を定期的に保護者に分かりやすく説明する機会を設け、保護者の安心に繋げていく。
3	環境面の安全配慮について細やかな対応が必要	バリアフリー対応ではなく、入り口や室内、トイレ前に段差があり障害となることも想定できる。また、配線コードも配置替えの必要がある。床もコンクリート素材にフローリングしているため、クッション性が弱い。	車椅子等の利用時にはスロープや手すりの設置なども検討していく。また、床についてもクッション性の高い構造改修ができるまではプレイマットを増やすなどして、安全に遊べる環境を整える。